

2015 年度大阪女学院中学校・高等学校事業計画

I. 建学の精神と教育理念

1. キリスト教に基づく人間理解の深化

大阪女学院中学校・高等学校は女性が一人の人格として、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をするを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力をもつ人間を育むことを目指す。宗教教育については、長年の実績を踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。また、入学後、保護者に対しても、キリスト教教育への理解を深めてもらえるよう努める。

2. 建学の精神の再認識と再構築

本校が、国際的な視点に立つミッションスクールとして、また女子の教育機関として設立されたという建学の精神を再認識し、グローバル化の進む現代に生きる女子のための教育の充実に努める。

II. 教育の内容と学習支援

上記の教育理念を具現化するため、生徒一人ひとりに与えられた賜を活かし、社会に貢献するための学力、協調性をもった行動力、自己と他者を大切にす人権意識、円滑な社会生活を営むための規範意識、そして世界平和を実現するための国際性を身につけること―「真の生きる力」を養う教育を目指し、教員同士、互いを大切にし、助け合いつつ、以下の取り組みを行う。

1. 学力向上の取り組み

- ・各教科で、学年、科目における目標設定を行い、教員の授業力 UP を目指す。
- ・中学入学時から高校卒業までに偏差値 10 ポイント UP を目指す。
- ・激しく変化する時代の中で、どんな困難な状況にあっても、希望をもって、創造的に、他者とともに生涯にわたり学習し、成長を続けていく「真の学力」を身につけることを目指す。
- ・中高一貫カリキュラムを見直し、成果と課題についての検討を進め、各教科でより充実したシラバスの作成を行う。特に目標に対する評価・測定方法を確立するよう試行する。
- ・自学自習できる主体性と自己管理の指導に取り組む。
- ・講演の感想文、クラス礼拝の生徒スピーチ等数多くある表現の機会を精査し、一定の評価やレスポンスを行う方法を検討し、自分の意見を論理的にアウトプットする力を向上させていく。

2. 授業内容の充実のための取り組み

- ・2週間時間割による授業時間の確保を行い、集中して自ら学習に取り組む力を身につけさせる。
- ・分割授業、習熟度別クラス編成の授業形態によるボトムアップに加え、応用・発展をさらに進めるためのプログラムについて検討する。
- ・高等学校全クラスに電子黒板を設置し、英語の授業をはじめ、各教科において有効に活用し、授業内容のさらなる充実に図る。

3. 英語科の改革

英語科が創設より半世紀を越え、国際的な視野に立って物事を見ることがさらに重視される現代において、カリキュラムに世界情勢を踏まえた内容を積極的に取り入れていく。また、種々の英語の資格試験について目標を設定し、英語力のさらなるアップをめざしていく。

4. 国際理解教育の推進

- ・留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。
- ・2015 年度も、年間留学生 1 名、中期留学生 2 名、短期留学生 3 名を受け入れる予定である。また、本校から年間留学、短期留学する生徒へのサポートを充実させる。留学の経験を中高の在校生に伝える、国際理解を深めていく。

- ・2015年度より中学に設置した「国際特別入試制度」を継続、発展させる。

5. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育(人権教育)については、「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、次の事に取り組む。

- ・人は皆、神によって創られたかけがえのない存在であることを深く認識し、日常生活において、一人ひとりの生徒が大切にされる解放教育を目指す。
- ・私たちの身近な差別を見つめ、生き方の本質に深く関わっていることを学び、自他(人間)の解放のために何が出来るかを考える。
- ・世界の人権の状況を知り、人権を獲得し、守り、発展させていく意味を学ぶ。
また、教職員の積極的な校内外研修参加で、解放教育をさらに実り豊かなものにする。
- ・SNSを利用するための知識、メディアリテラシーについて適切に学ぶ。

6. 生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、基本的な生活習慣や社会性を養う。特に、人間関係を構築する力、社会のルール、マナーを守り、礼儀正しく人と接する力、広く社会に目を向け、他人の人権を尊重し、コミュニケーションの中で相互理解を深め、主体的に行動する力を育てる。宗教・解放(人権)教育・生活指導・進路指導の各部門が協力し、プログラムを新たに開発する。

健康的な生活習慣を身につけ、セルフメディケーション能力を高めることができるよう指導する。

7. 学校行事による集団作り

生徒がリーダーシップをとり、自主的、かつ計画的に集団を動かしていく力を身につける機会として学校行事をとらせ、協調して互いの力を活かすチーム力を養う。特に、時間、費用、あとかたづけ、ゴミ処理等、自分たちでトータルに計画、管理していくことができるよう指導する。

Ⅲ. 教育の実施体制

1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み

中学校・高等学校 目標生徒数は、学力レベルをできる限り維持しつつ、以下を目標とする。

中学校 190名(募集人数) 高等学校 80名(募集人数)

受験希望者、保護者への広報活動、募集活動を強化し、受験生増を目指す。

(1) 広報の充実

- a. HP、公式フェイスブック等の活用によるリアルタイムでの学校紹介
- b. 卒業生の働き～時代を越えてつながる愛と奉仕の精神～の取材広報

(2) 説明会・学校訪問の全教員での取り組み

- a. 全教員で行う在校生の出身公立中学校訪問、オープンキャンパス、入試説明会の継続
- b. 在校生、卒業生の保護者、卒業生による「保護者のための evening 説明会」の継続
- c. 募集のための新しいイベントの企画

(3) 入試対策室の充実

入試対策副室長の設置

(4) 2015年度よりの中学入試「国際特別入試制度」の継続と発展

「国際特別」入学生の学習プログラムの整備

「国際特別」入学生を中心とする国際理解教育の発展

2. 中学・高校の組織改善の取り組み

教職員組織制度が円滑に機能するよう努め、中高一貫教育が更に充実するよう、中学・高校の組織の活性化を図る。若い世代が、中高6学年を偏りなく、すべて経験し、どの学年に所属しても、一貫教育の展望をもって指導できるように人事配置を行うよう努力する。

3. 中学・高校図書館機能の充実

(1) 蔵書整備

学校の教育活動を情報面からサポートするための各種資料・情報を収集する。

授業や行事のための調べ学習資料、豊かな感性や情操を育む資料、キャリア教育関連資料、教職員向け教科

指導用教材、研究、行事のための資料など。

(2)利用教育

情報収集ガイダンスの実施や、パスファインダー(情報の探し方や活用方法を紹介したリーフレット)を作成し、資料・情報を活用し自立して課題解決ができるように支援する。

(3)教員との連携

教員との連携を密にし、生徒の図書館利活用と授業に必要な資料収集の充実を図る。

(4)図書委員会活動

読書感想文コンクール、文化祭発表、他校図書委員との交流会実施など活動を支援する。

また、選書、展示企画など図書館運営への協力を得る。

(5)その他

タブレット端末を活用した授業の推進計画に対して必要な環境整備を検討する。

4. 中学・高校教員の人材育成

(1)建学の精神の学び

教職員全員で建学の精神を共有し、その実現に向けて本校の歴史や教育の流れを学ぶ機会をもつ。

(2)世の中の変化や課題についての学び

オール女学院で研修会を行い、世の中の変化や課題について話し合う機会とする。

(3)支え合う組織づくり

多忙を極める中でも、教職員一人ひとりが孤立せず、信頼し合い、支え合うことのできる組織づくりのために、「チームOJ」(新任教員を10年目までの先輩教員が迎える一泊・親睦研修)を継続して行う。

(4)他校との連携

キリスト教学校教育同盟の新人研、中堅研修、大阪私立学校人権教育研究会の新人研、その他の研修に積極的に参加することによって、教員のスキルアップを図る。

(5)新しい学力観への対応

学力についての考え方が、「知識・技能」中心から「思考力・判断力・表現力」及び「意欲・経験・多様性」重視へ転換が求められる現代にあつて、実践が求められている「探求型の授業」についての教員の研修を保証する。加えて、AV教室化した環境を活かして、今後数年間で新しい授業の形を模索する。

IV. 生徒支援

1. 生徒の自己実現を促す進路指導

(1)進路選択への指導、助言

2021年度大学入試より大きく入試のシステムが変化し、高校3年時に年4回の統一試験が実施されることとなる。今後はさらに中学での進路活動を充実させ、自分自身の進路目標を高校2年時点で明確にすることができるよう指導するため、特に中学3年での進路活動を充実させる。中高を通しての進路ガイダンスの更なる充実を図る。

(2)基本的学習習慣の確立

- ・定期試験2週間前に発表される試験範囲に沿った学習計画と準備を徹底させる。
- ・中学ではOJダイアリーの取り組みを継続し、学習習慣を身につけさせ、学習意欲の向上を目指す。
- ・テスト勉強だけにとらわれず、将来の進路を見据えて、毎日の学習計画と努力目標を考えさせていく。

ビッグシスター学習支援制度ー9月までに推薦で進学先の決定した高校3年生が中学1・2年の生徒の2・3学期の学習支援を行うーについては、継続していく。

(3)英語の外部検定試験化への対応

2014年度より英語の外部検定試験化が本格的に始まり、2021年度完全外部検定化を目指して加速することが予想される。センター試験のみならず2次試験への影響も必至である。早急に外部検定試験に対応することが必要である。講座の開設をはじめ、検定日にあたる日曜日のクラブ活動のあり方等、具体的な検討課題に取り組む。

(4)新しい大学入試への対応

- ・毎年大きく変化する大学入試において、生徒たちの希望する進路が実現するよう的確な情報の提供に努める。

- ・2021年度からの大学入試の変化に対応できるよう、教育内容を改革していく。
- ・新しい入試制度では、高等学校時代に勉学のみならずクラブ活動・ボランティア活動など様々な活動を経験していることが求められる。宗教教育や人権教育での実践と進路との関係性をさらに強め、実践のプログラムを推進する。

(5)大阪女学院短大・大学という併設の特色を活かした進学指導

併設短大・大学の優れた英語・国際教育、留学や他大学への編入プログラム等を視野に入れ、特色を活かした進路指導を行う。

(6)協定校推薦枠の拡大

- ・2017年度入試より、関西学院大学への協定校推薦枠が25名から40名に拡大された。被推薦生徒の学力向上のために英語の外部試験での基準を設け、推薦されるにふさわしい生徒として確かな英語力を習得する為、指導を強化する。
- ・神戸薬科大学を協定校として高大連携を深める。また、神戸女学院大学を新たに協定校として高大連携を進める。

2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- ・自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室（学校カウンセラー）、サポートルームと連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- ・授業・学級活動・生徒会活動・クラブ活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように努める。
- ・学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- ・不登校や発達障がいなど支援を必要とする生徒をサポートするため、「支援教育委員会」を充実させ、支援のための学校チーム力を向上させる。サポートルームについては、指導員が保健室と連携しながら、利用生徒の成長に寄り添う支援をさらに進める。支援教育アドバイザーのアドバイスを元にして、支援を必要とする生徒への教員の指導力を高め、一人ひとりの生徒を大切に教育を実践していく。
- ・特定の生徒への支援教育のスキル向上が、すべての生徒の支援に結びつくように、全教職員が意識を高めていくことを目指す。
- ・必要時、生徒の主治医や関係機関と連携をとり、適切な支援を目指す。
- ・生徒の言動・表情・着衣などを注意深く観察し、虐待の懸念・精神不安のある生徒を見逃さないよう、異常の早期発見に努める。

V. 改革・改善

2015年度の課題として、とりわけ以下の項目について重点的に取り組む。

1. 時代の求めに応じた宗教教育の推進

キリスト教学校教育同盟と連携しながら、激動の時代にあっても、自分の内面と向き合えるよう宗教教育を行っていく。

2. 生徒の学力向上について

(1)新しい学力観への対応

学力についての考え方が「思考力・判断力・表現力」及び「意欲・経験・多様性」を重視する方向に大きく転換していく現代、本校が従来から行ってきた国際的な視野と主体性を育てる教育活動をさらに進めていく。また、他校(海外を含む)の先進的な教育活動を研究し、導入する。

a. 2016年度に向けてシラバスを検討、改善する。

学力検討委員会において、各教科からシラバスについての説明を受け、教育内容を把握した上で、教科間の連携、合科にむけてアレンジを検討する。

b. 自学自習できる主体性と学力を獲得するための指導を継続し、さらに進める。

①自主学習の時間(土曜3限後)の充実

②OJダイアリーによる目標、スケジュールの自己管理指導の継続(OJダイアリーの改訂)

c. 分割、習熟度別の授業形態によるボトムアップに加え、実力錬成(応用・発展)のためのプログラムを推進する。

d. 土曜講座を充実させる。(高校1年生「基礎」と「発展」の講座／高校2年生「発展」の講座)

e. BB講座を実力養成のための自主学習の場としてより充実させる。

(2)英語科、教科としての英語の改革

- a. 英語科の生徒全員が、高校2年生の夏にエンパワーメント授業を経験し、現代社会のさまざまな分野の問題について、自分の意見を持ち、英語で討議する力をつける。
- b. 急速に進む英語の外部検定化に対応するため、体制を整える。
- c. 2021年度より合科型の統一テストが実施されることを鑑み、英語と他教科を結ぶテーマでの授業内容の連携、また総合力をはかる評価の研究を行い、実現をめざす。
(例 英語科における英語による代数の授業、数学、理科等の試験問題の一部を英語で出題する)
- d. ネイティブ講師による英会話の授業について、学術的なものへの発展をめざす。

(3)「国際特別入試制度」の継続と発展

「国際特別入試制度」(中学)の広報に努め、この制度による入学生の学習プログラムの整備を進め、この生徒たちを中心に国際理解教育を推進する。

(4)新指導要領完全実施の中での教育課程の見直し

高校の新指導要領の完全実施、また指導要領改訂を受けて行われる新しい大学入試に向けて、本校の教育目標に沿いつつ、現行のカリキュラムで改訂が必要なものがあれば、柔軟に対応していく。

2021年度より行われる大学の入試改革に向けて、本校の教育目標に沿いつつ、カリキュラム改訂を行う。

3. 留学の充実

YFUの年間留学生受け入れに加え、オーストラリアの Ravenswood 校(姉妹校)との交換留学、カナダのオタワにある Longfield Davidson 校(姉妹提携校)、YFU 韓国からの短期交換留学(1ヶ月)との交流を通して、国際(異文化)理解に取り組む。また、交換留学制度を利用して、留学を希望する生徒の支援をしていく。

4. ICT教育の推進

中学生高校生の発達段階に応じたデジタル機器の有効性について研究すると同時に、デジタル機器を活用した独自教材の開発や、授業における効果的な使用方法について研究する。

5. 中学・高校教務のシステムの統一化

中学校、高等学校の学籍管理、成績管理、時間割管理等のシステム統一を継続して進める。

ICT教育を進めるために必要な中高共通のインフラ整備設備投資について計画する。

- ・北・南校舎、図書館棟間LANの整備、HR教室のWi-Fi化を検討する。
- ・教職員のPCはデスク型共通のものに随時移行し、学内データのクラウド化管理を計画する。

6. 組織の再構築と運営方法の見直しの継続

教員1週2休による学校運営のため、各クラスの生徒についての情報やクラス運営の課題を学年担任団全体で共有し、クラスの垣根を越えて学年団全員が学年全体の生徒を見る意識を明確に持つことにより、一人ひとりの教員が臨機応変に判断する力、迅速に対応する力を身につける。

7. 学校危機管理についての検討

危険と危機、管理を区別し、事前・事後の対応について検討、緊急時における決定権順位の再確認を含め、文書化を目指す。

- ・特に大地震を想定した危険回避訓練、およびダメージコントロールの観点から事後の生徒、教職員の緊急避難生活を想定し、準備ならびにシミュレーションによる想定訓練を管理職・教職員で進める。
- ・学内の安全管理の観点から、早急に歩車分離の施策を検討する。

8. 教職員の人権意識の向上

- ・教職員の人権意識を更に高め、授業やクラブ活動での指導はもとより、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。
- ・いじめ、キャンパスハラスメント事象の発生を未然に防ぐため、学校全体で積極的に取り組む。キャンパスハラスメント規程、委員会の存在を、生徒、保護者、教職員に広く知らせて、いつでも相談できる体制づくりに努める。キャンパスハラスメントに関する調査を継続して行う。
- ・多忙な中でも日頃からコミュニケーションを怠ることなく、互いに支え合い、また現場の課題について話し合える教職員集団を目指す。
- ・2015年度の教職員フィールドワークでは大阪女学院創立のヘール先生が関わられた岡山県邑久にあるハンセ

ン病施設の家族教会の訪問を計画する。

9. 中高大短 連携プログラムについて

キリスト教・解放(人権)・英語を中心にして連携し、大阪女学院独自の進んだ教育プログラムを生み出す。
キリスト教学校教育同盟と連携しながら、時代の求めに応じた宗教教育を実施していく

10. 経費の削減と効率化

少子化、不況による中学受験者数の減少、大阪府の授業料無償化制度による学校負担増などの厳しい財政事情の中、事務の一元化、諸経費の見直しを継続して行い、管理部門の経費のさらなる削減と効率化を図る。また、大阪府をはじめとした教育に関する補助金制度を有効活用する。

11. 教員の労務環境改善

教員全員が1週間に1日の研修日(2週間時間割は継続)をとる制度を維持するために、会議、LHR などでの改善を進め、より働きやすい職場にしていく。

12. 施設内全面禁煙の取り組み

喫煙者の健康増進にもつながる禁煙の呼びかけを継続して行っていく。